

メーキャップ 状況	11月10日(月) 和歌山アゼリアR.C. 黒田 純一、中江 遵義、松田 洪毅、森川 宏昭
	11月10日(月) 海南東R.C. 糟谷 元春 / 11月15日(土) 河内長野東R.C. 笹島 良雄
	11月16日(日) クラブ研修リーダー委員会 田原 久一

ニコニコ箱

ありがとうございました

三毛理一朗さん	先週は私の拙い卓話に際し、励ましの為のニコニコを多数の皆さんより拠金して頂き、改めて深き友情に感激しています。
三毛理一朗さん	昨夜は情報・出席委員会のインフォメーションへ、山東さんから窓際の席でのんびりしていないで若い会員さんと一緒に勉強会へ出ないかとお誘いを戴き皆さんと楽しくロータリーを勉強させて頂きました。山東さんのご厚意に感謝して。
山東 勝彦さん	三毛、伊藤さま講師引受け頂きありがとうございました。
山東 勝彦さん	(情報委員会) 出席・ソング委員会と合同で入会3年未満研修会を総勢13名の出席で開催致しました。ありがとうございました。
伊藤 裕通さん	家内の誕生日にお花を頂き有難うございました。
寺下 浩彰さん	妻にきれいなお花有難うございました。
中江 遵義さん	ジャイアンツ来年は日本一です。
島 公造さん	昨日3年未満会員研修会ご苦勞様でございました。
谷口 文利さん	亀田さん、宜しくお祈りします。
堀岡 忠男さん	ホームクラブ例会に2週連続欠席します。すみません。
亀田 直紀さん	本日はよろしくお祈りします。
土方 浩市さん	三毛様をはじめ諸先輩方昨日はありがとうございました。ロータリー精神をより強くきぎみ込みクラブをエンジョイしてまいります。
吉田 篤生さん	昨日は入会3年未満のインフォメーションでした。お世話になりました。
阪神タイガース応援団一同	
八幡 建二さん	亀田委員長今回はクラブフォーラムよろしく。
前田 成蔵さん	亀田直紀さん本日のクラブフォーラムよろしくお祈りします。
榎畑 友洋さん	昨日のインフォメーションたいへん勉強になりました。諸先輩方ありがとうございました。

【本日の累計 65,170円(計14名)(お誕生日お祝い 329,000円 皆出席 55,000円 その他 1,189,040円) 累計額 1,573,040円】

本日の例会	11月20日(木)
●クラブフォーラム「米山奨学会」	
●お誕生日お祝い	
上山 英明さん 11月3日 楠本 章さん 11月17日	
吉田 篤生さん 11月29日	
●ピアノ演奏	中井 利枝さん
優しきあこがれ(倉本 裕基)	
愛は雅やかに(倉本 裕基)	

次回の例会	11月27日(木)
●卓話「自己紹介」	当クラブ会員 赤井 雅哉さん

前回の例会	11月13日(木)
●クラブフォーラム「ロータリー財団」	
●ロータリーソング	島 公造 ソング委員長 「四つのテスト」
●出席報告	島 公造 出席委員長 会員数56名(内出席規定適用免除会員10名)
11月13日(本 日)	39名 84.8%
10月30日(メーキャップ後)	47名 100%

市内ロータリークラブ情報	クラブ	日時	内容
	和歌山城南R.C.	11月20日(木)	クラブフォーラム「I.D.M.発表」
	和歌山南R.C.	11月21日(金)	第3回I.D.M.発表
	和歌山中R.C.	11月21日(金)	フリートークキング
	和歌山北R.C.	11月24日(月)	祝日休会
	和歌山アゼリアR.C.	11月24日(月)	祝日休会
	和歌山R.C.	11月25日(火)	卓話「幕末から明治維新を生きた河合小梅の魅力」小梅日記を楽しむ会 会長 辻 健さん
	和歌山西R.C.	11月26日(水)	卓話「NPO法人紀州えこなびと」理事長 榎本 純子さん
	和歌山東南R.C.	11月26日(水)	I.D.M.発表

国際ロータリー第2640地区 和歌山東ロータリークラブ 創立/1959年2月23日
 例会場/ルミエール華月殿 和歌山市屋形町2-10 TEL (073) 424-9392 例会日 木曜日 12時30分
 事務局/〒640-8142 和歌山市三番丁6関西西電ビル5F TEL (073)432-4343・FAX (073)432-4845
 会報・広報委員会 嶋 弘伸 古屋 光英 笹島 良雄 武田 慎介 吉田 篤生



2008~2009年度 国際ロータリーのテーマ

「夢をかたちに」~Make Dreams Real~

2008~2009年度 和歌山東ロータリーのテーマ

「ロータリーの魅力再発見」

国際ロータリー第2640地区

和歌山東ロータリークラブ

URL: http://www.werc.jp
E-mail: info@werc.jp

2008年 11月20日(木) 週報 / VOL.50 No.19(通巻2382)



会長報告

八幡 建二 会長



皆さん こんにちは。和歌山駅前のロータリー花壇を花いっぱい推進協議会の方に委託して管理していただいておりますが、先週日曜日は市内9クラブと市長にも来ていただきまして花の植え替えを行いました。またご覧いただきたいと思っております。

また昨日は島委員長のお骨折りで、入会3年未満の会員の勉強会ということで、三毛さんや伊藤さんのお話を聞かせていただいたり、歌の練習をしたり、短い時間でしたが非常に有意義に過ごしました。こういう企画は年に1回か2回は続いてほしいと思っております。

本日の和歌山新報の記事に「GYE」について掲載されておりました。外務省のグローバル・ユース・エクスチェンジ(GYE)事業で選ばれた23ヶ国の青年27人が10日、和歌山市西河岸町の資源リサイクルセンター(株)松田商店(松田美代子代表)を訪れ、同社の社会貢献施設「ぐるくるシティ」やペットボトルのリサイクル工場を見学した。GYE事業は平成6年から、毎年行われている事業で、毎年テーマを決め、外国から青年たちを招き日本の青年と言葉や文化の壁を超えて地球規模の諸問題について討論の場を提供。国際的な相互理解を深めようというもので、過去14回で参加者の累計は530人に達している。今年のテーマは「持続可能社会を考える～循環型社会と気候変動へのとりくみ～」で、日本を含めて中国、ネパール、カナダ、ブラジル、デンマーク、フランス、トルコ、モロッコなど23ヶ国の22歳から35歳までの青年が3日から17日まで日本に滞在する。県内では、串本海中公園センター、古座川、ピオトープ孟子などを訪れ関係者による講演や地域との交流を行った。松田商店へは、今年のテーマに沿って企業の社会貢献、環境教育、リサイクル型社会への実践活動などを学ぶ目的で訪れた。

また、和歌山新報には田原君の奥様の「あきらめたらアカン」という記事も大きく載っていましたので、是非ご覧ください。



11月9日 JR和歌山駅前ロータリー花壇植え替え

幹事報告

前田 成蔵 幹事



- ・河内長野東ロータリークラブ 第3回 歌・踊・奏発表会のご案内 回覧
- ・こぼと学園より みかん狩りのお礼状、感想文、作文 回覧
- ・和歌山青年会議所 11月例会のご案内とJCニュース 回覧
- ・ガバナーマンスリーレター 回覧
- ・2009年度国際ロータリー年次大会 100回記念大会のお知らせ 回覧

- ・世界エイズデー啓発活動のご案内 11月29日(土)13時~16時 JR和歌山駅地下イベント広場
- ・2007-2008年度表彰のパナー紹介
 - 100パーセント「財団の友」会員クラブ
 - 「毎年あなたも100ドルを」クラブ

委員会報告

職業奉仕委員会

内畑 瑛造 委員長



皆さん こんにちは。12月18日の刑務所見学ですが、刑務所には氏名や性別などを報告しなければいけませんので出欠をお早めをお願いします。

親睦委員会

野上 泰造 委員長



親睦委員会よりお詫びを申し上げます。この日曜日に倉敷への日帰り旅行を計画しておりましたが、参加者少数のため中止いたします。なお来年4月18日19日には、50周年の打ち上げもかねまして一泊で京都旅行を計画しております。ゴルフ組と観光組に分かれて行動いたします。多数のご参加宜しくお願いいたします。

クラブフォーラム ロータリー財団

亀田 直紀 委員長



本年度、ロータリー財団委員長を仰せつかっております亀田でございます。

本日は、昨年の「職業奉仕」に続き、私自身で、クラブフォーラムでの発表をさせていただきます。私の基礎知識は、昨年勉強したその「職業奉仕」と、今日までにお話を伺った「財団」についての一部しかありませんので、その辺はご容赦ください。

地区会議でお話を伺ったときのことで、冒頭おっしゃっていたのは、「財団はロータリーの根幹である。」ということでした。また続いて「財団を理解するのは、難しい。」ということでした。たしか昨年、職業奉仕について勉強したときも、冒頭に同じ言葉を聞いた記憶があります。なにかデジャブのような感覚になりました。結論、ロータリーは全部が難しいんだということらしいです。

さて、「職業奉仕」は、哲学であり、論理ですからなんとなく夢や理想を語れるように感じますし、哲学を共有することで世界中のロータリアンとシンクロできる可能性を感じていましたが、本年、私の課題である「財団」についてですが、理解が困難でメンバーが把握するのに一定の勉強が必要なことは、すなわち、わかりにくさは、第一印象として、やはり、お金が絡みますので、いかがわしさを内包しているように受け止めてしまいます。私個人は零細企業の事業主ですから、何か良いことしているという団体からお金を出せという電話をうけた経験がありますが、皆様のところも同様だと思いますが、その時感じたいかがわしさと同様の苛立ちを感じました。

地区の話も、最後にはクラブを通じて個々のロータリアンに対し、浄財のお願いに落ち着きます。この後、役割上、皆様にもその浄財のお願いをすることになるのですが。第一この浄財という言葉の使い方も宗教以外で使うと、いかがわしさを内包していますよね。何か最初から言い訳しているみたいで、もしかするとお金の付き合い方、特に使い方が日本人にとって、もっとも苦手な部分かもしれません。

それで、批判めいたことばかり考えていてもしょうがないので、そのいかがわしさを払拭するために私なりの理解に取り組んでみました。今日はそのプロセスを発表させていただきます。

私は東京でサラリーマンをしていたころ、ある財団の事務局員でした。私が知っている財団法人には、事業財団と交付財団の2つがあります。事業財団というのは、自らのプロ

ラムにしたがって何がしかの事業を行っている財団です。一方の交付財団というのは、申請に基づき、その内容を審査し助成の可否を決定して金銭を支給する財団です。もちろん両方も法に基づいた法人です。どうも私を感じるいかがわしさを突き詰めていくと、ロータリー財団は日本の法律にその存在の根拠をもたないからではないかと考えるようになりました。ロータリー財団っていったいなんなのでしょう？この12月から施行される公益法人認定法の適用を受けるのでしょうか？

ロータリー財団の日本語での正式な名称は「国際ロータリーのロータリー財団」です。いっぽう米山のほうは「財団法人 ロータリー米山記念奨学会」です。こちらは日本の法に基づいた、れっきとした財団法人であります。現行の法のもと認定された公益法人であります。ですから、われわれは、たとえロータリアンでなくても日本国の主権者である日本国民としてこの財団に関与することができます。ですが、財団法人ではない「ロータリー財団」に対し、日本国民は関与できるのでしょうか。一般の方が財団に寄付をする場合もその手法はホームページでは公開されていません。また「寄付のお願い」というようなページも見つかりませんでした。ちなみに笹川さんのまわしものではありませんが、日本財団では一般寄付というのがあり、人件費などの中間コストに消えることなく100%の活用をホームページ上で約束しています。どうやら「ロータリー財団」では、ビルゲイツのような大口に対する働きかけ以外は、一般には寄付を募っていないようです。ただし、ロータリアンという身分があれば、これからも、これまでもわれわれがしてきたように当然寄付できます。

では財団での意思決定プロセスや予算・決算にわれわれは関与できるのでしょうか？ロータリー財団を構成する法人会員は国際ロータリー(RI)のみであります。そのRIの理事会が選出した15名の「ロータリー財団管理委員会」によって運営されています。ではRI理事会構成メンバーはどのように決まるのでしょうか。これまた、すごく難しく煩雑な手続きになりますので詳細は手続要覧に譲りますが、結論は、一ロータリアンの立場からでいえば、間接選挙の何乗というような薄い一票ではありますが、やはり関与しているんですよね。ですから民主主義の原則でいえば、決定に関与した者はやはりその責を負うということになると思うのです。ただ私としては、薄すぎるんですよね。その一票の度合いが。この薄さが、当然の帰結として財団への関心の薄さに比例していると思います。実感と

して財団の運営に関し主体性を感じていませんし、実際どこか遠くでエライ人たちが決めて、寄付金額だけがノルマのように降りてくる。そんな印象から抜け出せなくなっているように感じました。

一方、地区の立場を考えますと、地区の組織はガバナーをトップとした組織であります。ガバナーをRIという国際会社の現地法人の支社長になぞらえてみると、RIつまり本社の意向をクラブやわれわれに橋渡的に伝えなければなりません。しかし、理屈の上ではその意向は一定の民主的な手続きを経て、つまりわれわれ自身が決定に関与しているにもかかわらず、遠くの決定を上意下達のように伝え、そして聴いています。われわれ一人ひとりが、自然人で、ある生きた人間が直感でとらえるには、国際ロータリーという組織はあまりにも大きすぎることに問題の根本があるように思います。ですから、よくよく勉強してその巨大な機構のダイナミズムを楽しむか、かたや、ほっかむりをして知らん振りするか、両極端の会員が存在するのでしょうか。

そしてもうひとつの関与の方法は財団からの資金供与の引き出し方です。つまり財団の使い方です。ご承知のとおり財団にはポリオプラスや財団奨学生をはじめ多くのプログラムが用意されていますが、これ以外、たとえば「こぼと学園」にかかわるプログラムで和歌山東が財団に資金供与を申請する方法は存在しません。また先ほど申し上げた日本財団のように広く一般に申請の機会も与えられておりません。ポリオプラスは一人のフィリピン人ロータリアンの書簡からスタートしていますが、幸運だったとしか考えられません。財団の制度としてはそんな書簡を受け付ける窓口がないからです。先日来、産経新聞のコピーが例会ごとに配布されていますが、その新聞記事でも、先ほど申し上げたそのフィリピン人ロータリアンが書簡を送ったのは、財団ではなく国際ロータリーでした。

また、財団の立場を想像すると、たぶん彼らの言い分はききどころでしょう。「多くのロータリアンに支持されている、そして問題意識を共有しているプログラムを多数用意してあります。」と。つまりロータリー財団は、先述の事業財団なのです。これは良い悪いではなく、単に財団の在り様なのです。これに対し、批判めいた忠告には、たとえば寿司屋でカレーを注文しているようなものです。元財団職員としては、「ウチは寿司屋

だ！カレーが喰いたいならばよそへ行ってくれ！」と感ずるでしょう。これは、当時の私の正直な実感です。

これらの考察から、私は現在のロータリー財団はロータリアンの声を吸い上げるには不向きな組織であると判断します。もし本当に「財団はロータリーの根幹」ならば、このような状態では会員減少は必然といえるでしょう。言葉尻をとらえるわけではありませんが、「国際ロータリーのロータリー財団」という正式名称からもわかるように「ロータリアンのためのロータリー財団」ではないということです。

ならば、国際ロータリーをわれわれロータリアンのために、より近い、もっと親しみやすい存在に変えてしまえばよいのではないのでしょうか。そうすれば、財団の名称もたとえば「地域で活躍する一人のロータリアンのためのロータリー財団」ということになりはしませんか。この「一人の」というのが、入会のときに教えていただいた I Serve なのか We Serve なのかの私なりに考えた違いです。I Serve ならば、クラブや地区といった組織経由のなしではなく、一人のロータリアンにスポットを当て、I Serve を実践している名も無き地域のロータリアンの正義を財団が支援できる仕組みを構築するべきでしょう。なぜならば、彼はすでにその地域のクラブに入会を許されたロータリアンなのだからです。

いずれにしても、せつかくロータリアンの身分を頂戴しているのですから、もっと関心をもって強く関与することこそが、ロータリークラブに限らず自らが所属する団体を正しい方向へ向けていく唯一の方法であると私は信じています。

一般論としていわせていただくと、わかりにくさの大半は、わかってほしくないからであり、わかると都合悪いことがあるからであると考えます。一方、運動のわかりやすさはポピュリズムなどではなく、シンパを多くする最大の広報活動であります。ならば、ロータリー運動の成果の極大化を望むのならば、たとえば中学生にもわかるような仕組みを構築するべきではないのでしょうか。2年連続で「ロータリーは難しい」という言葉を地区会議で聞くことになりました。できれば「ロータリーは楽しいでしょ」と聞きたいものです。まもなく迎える新しいメンバーのためにも、そうありたいと願います。本日の私の発表がその為役に立つことを祈ります。

ありがとうございました。

ポールハリスフェロー 表彰



角谷 芳伸 会員

こぼと学園の子供たちとのみかん狩りとバーベキュー

11月1日 矢田農園

